

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
阿部 智美

作成日 2024年1月16日

1. 教育の責務

2017年（平成29年）度から弘前学院大学看護学部採用され、本年度2023年度で7年目となる。看護学分野で主として基礎看護学領域を中心に、講義や実習科目を担当している。担当した授業科目以外には次のようなものがある。

- ・ 看護師国家試験対策補講 看護学部 4年
- ・ 卒業研究倫理審査委員会

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎看護技術論	1年	演習	前期	環境整備、活動、食事の援助
基礎看護技術演習Ⅰ	1年	演習	前期	感染予防、バイタルサイン測定
基礎看護技術演習Ⅱ	1年	演習	後期	清潔、排泄の援助、無菌操作
フィジカルアセスメント	1年	演習	後期	フィジカルイグザミネーション
基礎看護技術演習Ⅲ	2年	演習	前期	採血、注射、酸素療法、吸引
研究方法論	4年	講義	前期	論文構成・クリティーク
PHC実習Ⅰ	1年	実習	前期	早期体験実習
基礎看護学実習Ⅰ	1年	実習	後期	コミュニケーション
基礎看護学実習Ⅱ	2年	実習	前期	看護過程の展開
看護統合実習	4年	実習	前期	緩和ケア
基礎演習	1年	演習	前期	図書館の利用の講義、講義内容を生かした演習
卒業研究	4年	論文指導	通年	主に基礎看護学に関する内容

2. 教育の理念

看護基礎教育においては、看護専門職者としての基礎的能力を育成することが重要である。医療の高度化や高齢化社会に対応できるように、在宅や施設などでの看護の必要性がより高まっている。学生が看護基礎教育を終えてからも、学んだことを基に、社会のニーズに応えながら、活躍していけるような基礎的能力を育成することが必要である。

本学において、1、2年生を対象に主に基礎看護技術演習と基礎看護学実習の科目を担当している。これらの科目について以下のような方針・姿勢で教育活動を行っている。

1. 基礎看護技術演習 I II III の場合

対象者に看護援助を実践する際には、安全で安楽な援助技術を提供することが重要である。また、患者個々の健康状態やセルフケア能力を把握して、個別的な援助を行うことが求められている。対象に応じた安全・安楽な援助を行うためには、理論的な根拠を理解した援助技術の修得が欠かせない。さらに、対象者へ看護援助を提供する際には、倫理的な態度の育成も重要となる。

2. 基礎看護学実習 I II の場合

対象者を身体面のみならず、心理・社会的側面を踏まえた統一体として捉え、人生のライフスパンや具体的な生活のあり様を理解し、援助を考えていくことが重要である。また、対象者が健康を回復し、保持増進していくための援助ができるように、対象者との関係形成につながる態度や倫理観の育成も必要である。

3. 教育の方法

1. 基礎看護技術演習 I II III の場合

安全・安楽な援助技術を提供するための援助技術の根拠の理解については、講義・演習の前に教科書・参考書を用いて事前学習を提示している。例えば、演習要項に手順と共に根拠をまとめ、動画の視聴を勧め、効果的な技術修得を目指している。また、演習中には、指導教員が個々の学生にフィードバックを行い、学生自身も自己の技術の振り返りができるように演習のまとめを書いている。さらに、授業では関連した内容の国家試験の問題を提示し、知識の定着を促している。その他に、講義では要点を強調するため、パワーポイントに「重要」のマークをつけ、講義の最後に学習のポイントを提示している。実技試験では、学生が練習しやすいように、配布資料を工夫し、個別指導をしている。援助を提供する基盤となるように、演習時での身だしなみの確認や演習での準備や片付けも指導している。このような細かな指導を行うことで、基本的な態度の育成にもつながると考える。

2. 基礎看護学実習 I II の場合

学生が対象を理解し、必要な援助が理解できるように、基本的な視点や観察項目、看護過程等の思考過程、文献の活用の仕方を提示している。学生がどのように対象を理解して、どんな看護援助を考えたのかについては、記録物の他に学生とのコミュニケーションを通して把握している。また、学生は患者とのコミュニケーション以外に、看護師とのコミュニケーションにも戸惑うことがある。そのため、基本的な挨拶や報告方法等のコミュニケーション方法についてもオリエンテーションを行っている。

4. 教育の成果

評価について、基礎看護技術演習ⅠⅡⅢ「授業評価アンケート」結果を踏まえて記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して
 - 1-1. 「シラバスに記載された到達目標を達成できると思う」は、基礎看護技術演習ⅠⅡⅢ共に科目平均値の中で最も低かった。
2. 「授業担当者に対する評価」に関して
 - 2-1. 「教員の話し方、言葉は聞き取りやすい」は、基礎看護技術演習ⅠⅡⅢ共に科目平均値の中で最も低かった。
 - 2-2. 基礎看護技術演習ⅡⅢで「教員は、学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている」は、2番目に低かった。
3. 「授業内容に対する評価」に関して
 - 3-1. 「この授業の進め方のペースは適切である」は、基礎看護技術演習ⅠⅡⅢでは最も低かった。

5. 教育の改善

上記4の「授業評価アンケート」結果を踏まえて、改善すべき点を記す。

- 1-1. 講義内容の理解や予習・復習の取り組みが関係していると考え。達成感が得られるように工夫したい。
- 2-1. 話し方、言葉は聞き取りやすいように注意したい。
- 2-2. 講義・演習では質問の有無を確認し、提出物にはコメントを書いて返却しているが、個々の理解に合わせた関わりができるようにしていきたい。
- 3-1. 1、2年生で講義内容は難しく、演習があるため1回の講義内容の量は多くなる。そのため、講義・演習前に事前学習を提示しているが、学生の理解を促す教育方法を工夫していきたい。

6. 教育の目標

短期的には、今まで通り、授業・演習では質問の有無を確認し、演習では提出課題にコメントを返す等、個々の学生へのフィードバックを大切にしていきたい。

中長期的には、学修の達成感が得られ、主体的な学修に繋がるような工夫を取り入れていきたい。また、成績が思わしくなかった学生に学修方法を尋ねた際に、学修の取り組み方に課題があった。学生の学修への取り組み状況を把握し、個々の学生に決め細やかな対応をしていきたい。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 定期試験および中間テスト、実技試験結果
4. 事前学習課題のプリント
5. 演習要項（事前学習、演習課題）
6. 授業改善書